



今できることプロジェクト 2023-2024 再生と伝承

中学生に託す伝承のバトン

中学生がつなぐ記憶と教訓

宮城県内3校の中学生が新聞記者となって被災地で取材を行い、その成果を河北新報別刷紙面「震災伝承新聞」として2月11日に発行。塩竈市立第二中学校では、記事を製作した6人による校内発表会が行われました。

命を守る備えの大切さを共有

昨年9月23日、塩竈二中の1、2年生6人は、都市型津波に襲われた多賀城市の浸水域を多賀城高校災害科学科の高校生が案内する「まち歩き」を体験取材。敷地に津波が到達する中で救助活動に出動した陸上自衛隊多賀城駐屯地では、過酷を極めた任務の聞き取りを行いました。多賀城市役所では市の危機管理部門の担当者と八幡上二区町内会の方をそれぞれ取材。都市部特有の津波被害と備えの

大切さについて理解を深めました。震災伝承新聞発行後の3月6日、読書の時間に震災伝承新聞を全校生徒で読み込んだ後、体育館に集った1、2年生を前に中学生記者が壇上で発表を行いました。まち歩き後の意見交換の場で震災を記憶する最後の世代としての決意を語った高校生から気づきを得たメンバーは、記憶のバトンを受け継ぐことの大切さを訴えました。自ら被災した自衛隊多賀城駐屯地の記事をまとめた班は、平時から災害に備えることで、いざというときに役割を果たせることをアピール。

多賀城市役所での取材内容を記事にした中学生記者は「あの時こうすればよかった」という後悔の言葉を多賀城での取材を通して幾度も耳にしたことを紹介。災害を他人事にせず、我がこととして備えるよう呼びかけると、会場からは惜しみのない拍手が送られました。

資料をスクリーンに投影しながら防災講話で発表を行う中学生記者



中学生記者

細谷 陽樹さん(1年)

今回の活動を通して、自分自身の防災の意識を高めることができました。防災講話での発表では、うなずきながら聞いてくれる人たちが多く見られ、学校全体の防災意識も高めることができたと感じました。



発表会参加者

岡田 かれんさん(2年)

震災伝承新聞を読んで、私も後世に語り継いでいきたいと思いました。中学生記者の発表から、自分の身は自分で守る必要性を改めて考えました。平和な時間は当たり前ではなく、今の生活や周りの人を大切にしていきたいです。



「震災伝承新聞」を発行しました！



中学生たちが作り上げた「震災伝承新聞」は、こちらからご覧いただけます。



「震災伝承新聞」は、宮城県内186の中学校へ配布したほか、愛媛県今治市の近見中学校と兵庫県西宮市の浜脇中学校などで教材として活用されました。東北各地の震災伝承施設、宮城県外の災害に関する研究を行う大学や団体、東京都・池袋「宮城ふるさとプラザ」、宮城県大阪事務所などでも配布しています。

震災伝承新聞の送付をご希望の学校、団体、施設等は事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部) tel 022-211-1318 (平日10:00~17:00)

今回参加した中学生記者全員の「声」を今できることプロジェクトホームページに掲載しています。

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。 | www.kahoku.co.jp/imadeki/ | 河北 今できること 検索

facebookページもあります。

私たち賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/キリンビール 東北統括本部/ケースデンキグループ・デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/神戸製鋼所東北支店/サッポロビール/サントリー 東北営業本部/JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/仙台環境開発/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勤/東伸環境/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/日本郵便 東北支社/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/平松剛法律事務所/藤崎/富士フィルムグラフィックソリューションズ/みちのく企業グループ/三井住友海上/三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城交通/みやぎ生協/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/河北新報社(順不同) ©後援/宮城県、福島県、仙台市、石巻市、塩竈市、多賀城市、名取市、大熊町、富岡町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

記憶のたすき受け継ぐ

多賀城の浸水市街地を「まち歩き」



見えぬ海から猛烈な津波



都市型津波後世に伝承

多賀城市、ネット上に見聞録

「震災伝承新聞」は、宮城県内186の中学校へ配布したほか、愛媛県今治市の近見中学校と兵庫県西宮市の浜脇中学校などで教材として活用されました。東北各地の震災伝承施設、宮城県外の災害に関する研究を行う大学や団体、東京都・池袋「宮城ふるさとプラザ」、宮城県大阪事務所などでも配布しています。



壮絶な緊迫感 ビデオに多賀城駐屯地 活動144日

陸自隊員 救助に尽力

陸自隊員は、震災発生後、被災地に駆けつけ、救助活動に尽力しました。彼らの奮闘により、多くの命が救われました。彼らの功績を後世に伝えることが、我々の責務です。



聞いて！ 知って！ 同世代へのメッセージ

あの日を振り返り、今を生きる。震災から10年が経ちました。私たちは、過去の記憶を大切に守り、未来に伝える責任があります。同世代の皆さんへ、声を届けたいです。

聞いて！ 知って！ 同世代へのメッセージ